
No.5:BSWM でのセミナー

2007年からベンゲット州で行っている活動とは別に、2013年12月よりフィリピン国内でベンゲット州以外の14州を対象に新しいプロジェクトがスタートし、林田俊哉君が新プロジェクト現地調整員に就任しています。

現在ベンゲット州で活動している古屋君とは別の視点で、林田君からもフィリピン現地の様子をレポートします。(平成26年度分)

7月9日にBSWM(Bureau of Soils and Water Management:フィリピン農業省 土壌・水利管理局)と共催したセミナーについてお伝えします。

以前もこのウェブページでお伝えしたとおり、当プロジェクトではBSWMと連携して炭・木酢の研究を始めています。今回はその連携の一環としてケソンシティ内のBSWMのコンベンションホールにてセミナーを開催致しました。



BSWM テハダ局長挨拶

当日は約110名の参加者がフィリピン全国各地から集まりました。DA(フィリピン農業省)各地域のオーガニックプログラム担当者、大学の研究者、オーガニックを実践している農家など、豪華な顔ぶれが出揃いました。BSWMからも多くの研究者が参加し、またBSWMディレクターのテハダ氏も終日参加していただくなど、セミナーは盛大なものとなりました。

多くの参加者が前日入りしていたこともあり、フィリピンでは珍しくほぼ予定通りの時間に開始し(通常は 1-2 時間遅れで始まります)、まずはディレクターの挨拶。その後、BSWM でオーガニックプログラムを担当しているカレンさんがフィリピンのオーガニック事情についてお話されました。フィリピンでは国を挙げて、オーガニック農業を推進しており、また消費者の安全野菜への関心も高まっています。



BSWM オーガニック担当のカレンさんのプレゼンテーション

その後、私が JAEC プロジェクトの概要を説明し、ベンゲット・プロジェクト現地調整員である古屋さんが「炭、木酢の農業への活用方法」についてのプレゼンテーションを行いました。ベンゲットのデモファームでの経験などについてのお話もあり、参加者の関心も非常に高かったように思います。



プロジェクトの説明



ベンゲット現地調整員の古屋さん

また、今回ベンゲット州ツブライ町からジェフリー農政課長にもスピーカーとして参加してもらい、同町のこれまでの取り組みについてお話をいただきました。同町は 2008 年から JAEC のプロジェクトに参加しており、町の予算を使って、炭窯や堆肥施設を建設するなど、積極的に SAVERS に取り組んでいる自治体の一つです。



ツブライ町のジェフリー氏

セミナーは大成功だったと思います。最後の質疑応答では参加者からものすごい数の質問があり、予定の30分ではとても収まらず、答え切れなかった質問は私たちの宿題となりました。また、質問の質が非常に高く、私たちもこれからもっと勉強しないといけないと痛感しました。



質疑応答は大盛況

セミナーは大成功

特に、リサーチに関しては、今後 BSWM と協力して進めていきたいと思っています。BSWM では既に3つのリサーチセンター(タナイ、ブラカン、ブキドゥノン)での炭窯建設を決めており、本格的に研究を始める予定です。ここで SAVERS テクノロジーの有効性が確認されれば、普及に弾みがつくと考えています。



全員で記念撮影